

6 六勝寺

りくしよびじ／ろくしよびじ

知る

どんなお寺

六勝寺とは、院政期、天皇や中宮の発願で鴨川東岸の白河（現左京区岡崎）の地に建立された六つの寺院。いずれも「勝」の字がつくので六勝寺と総称されました。

法勝寺は白河天皇御願。承暦元（一〇七七）年落慶供養。
 尊勝寺は堀河天皇御願。康和四（一一〇二）年落慶供養。
 最勝寺は鳥羽天皇御願。元永元（一一一八）年落慶供養。
 円勝寺は鳥羽天皇中宮待賢門院藤原璋子御願。大治三（一一二八）年落慶供養。

成勝寺は崇徳天皇御願。保延五（一一三九）年落慶供養。
 延勝寺は近衛天皇御願。久安五（一一四九）年落慶供養。
 いずれの造営も受領層の力に負うところが大きく、これまでに出土した瓦や礎石から、建築用材が全国各地から調達されていたことがわかります。創建後、落雷や火災などでたびたび災害に見舞われましたが、そのつど修復再建されました。しかし、南北朝には次第に衰微し、応仁・文明の乱（一四六七～七七）の兵火で廃絶しました。

院政と白河の地

十世紀後半頃になると、平安京右京の衰退が進む一方、左京は繁栄し、鴨川の東に邸宅が数多く軒を並べました。

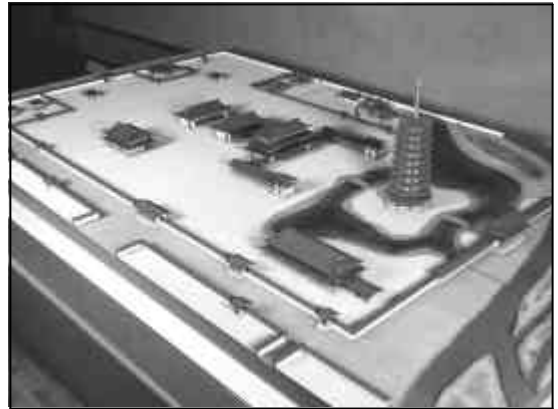
とくに二条大路末の南北に広がる白河の地は、九世紀半ば頃に摂政藤原良房の別荘白河殿が築かれて以降、桜の名勝として知られました。白河殿は、藤原道長ら藤原氏長者に代々伝えられましたが、承保二（一〇七五）年頼通の子師実は、これを白河天皇に献上しました。その地に造営されたのが法勝寺です。

応徳三（一〇八六）年、白河天皇は讓位して院政を開始し、法勝寺の西側に白河泉殿（北殿）という院御所を造営。さらに南殿とこれらに附属する御堂、蓮華蔵院と得長寿院を建立しました。

このように白河の地は、六勝寺のほかにも院や女院の御所や仏堂が多数建ち並び、洛南の鳥羽殿（鳥羽離宮）とともに院政の拠点になりました。また、白河は粟田口から逢坂関を越え東国に向う要路が通り、人や物資移動の中心地でもありました。

法勝寺の九重塔

「国王の氏寺」と称された法勝寺の中心に位置する金堂の本尊は、奈良東大寺の大仏殿と同じく毘盧遮那仏でした。これは、法勝寺が護国のための国家的寺院として位置づけられ



法勝寺模型(京都市制作)

ていたことを物語っています。また、金堂南の池の中島には高さが八十メートル以上あったと推定される壮麗な八角九重塔が建っていました。法勝寺は国王の権威を示すための記念碑的な意味を持ち、多くの僧侶や貴族たちが奉仕する様々な国家的仏事がこの寺で行われました。

歩く／見る

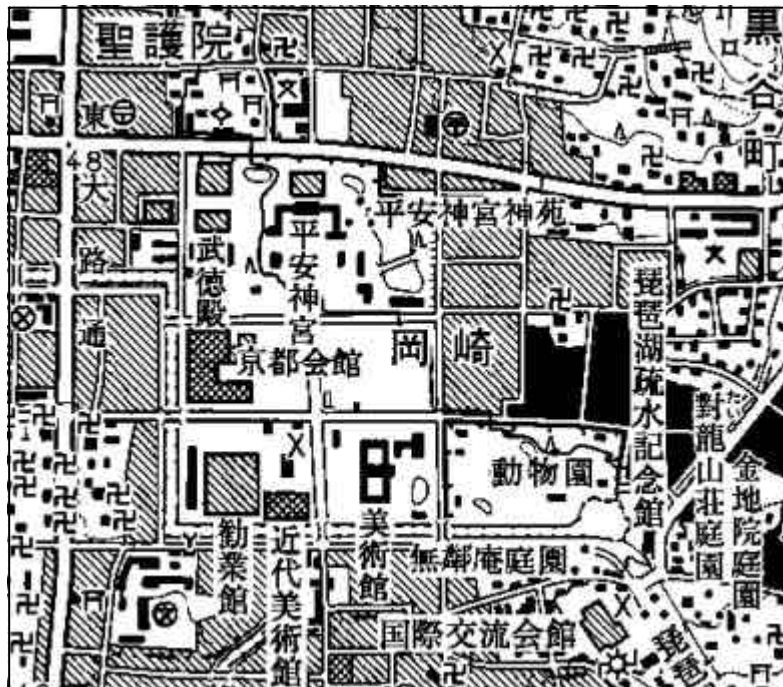
六勝寺跡 左京区岡崎

現在の岡崎文化ゾーンの一部が六勝寺跡地に当たります。現

在では、法勝寺町や成勝寺町などの町名がつけられ、往時をしのばせま



京都市動物園内の法勝寺八角九重塔跡(上)と尊勝寺跡石標(右)。



上の図は六勝寺跡の現況。図中、動物園とその北部一帯が法勝寺、京都會館とその西一帯が尊勝寺、平安神宮とその南一帯が最勝寺、(京都市)美術館一帯が円勝寺、(国立)近代美術館一帯が成勝寺、(京都市)勤業館一帯が延勝寺のそれぞれ所在とされている。

* 国土地理院長の承認を得て同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製。承認番号平14総複第494号

す。高さ八十メートルをこす大きな塔だった法勝寺八角九重塔の跡地は京都市動物園の構内にあたり、法勝寺跡の石標が建てられています。